

あいのり

Monthly

2025.6.30

6月のマーケット概要

6月は、日米株式市場は、下旬に地政学リスクの低下や不透明感の和らぎなどから5月に続き反発しました。

経済指標では、上旬に発表された雇用統計で失業率は4.2%の横ばいでしたが、求人件数の割合、総賃金の伸び鈍化などから、雇用は少しずつ鈍化を示しています。中旬に発表されたインフレ指標では、関税の影響がまだ見られず、総合で2.4%、コアで2.8%と落ち着いた内容となっており、関税の影響がデータへ反映され始めるのは7月以降と考えています。日銀金融政策決定会合では、政策金利は予想通り維持されたものの、国債買い入れ額減額の縮小の発表を行い、ハト派寄りのスタンスが確認されました。また米FOMCにおいては、政策金利は予想通り維持された一方、今回発表された経済見通し（SEP）では、GDP予想を下方へ、失業率予想を上方へインフレ率は上方へ修正するなど、スタグフレーション懸念を想起される内容でした。利下げ回数予想を示すドットチャートでは、今年の利下げ回数を減少する傾向となっていました。

6月中旬から下旬にかけて中東の地政学リスクが高まりました。13日にイスラエルがイランに対し、イランの核濃縮が完成に近づいているという理由から、空爆を行い、それに伴い、月初60ドル台だった原油価格が75ドル台まで上昇しました。その後翌週末には、米国が核関連施設3か所を攻撃し、イランとイスラエルの間で停戦合意が行われたことで原油価格は反落し、月末では64ドル台で落ち着いています。

この様に、地政学リスクの後退、実体経済は好調、インフレ率低下に伴う長期金利低下傾向、政策金利引き下げ期待、債務上限枠の引き上げを含む大型減税法案の可決期待、関税交渉期限の到来が近づくにつれ徐々に決着が見られていることに対しての期待から、米国株は、史上最高値に迫る勢いで上昇しています。また日本についても、6月は自社株買い、配当などの需給面と7月の参院選挙期待から再度4万円台を試す展開となっています。

今後の見方ですが、実体経済は良好なものの、これまで期待先行で上昇してきた様相が大きく、米国株は再び割高な水準に戻ってきたという認識でおり、この水準から大幅な上昇には警戒が必要と考えます。

弊社のファンドは、4月の大幅下落以降、強気スタンスで、キャッシュ比率を低く抑えていましたが、今月は反転下落の可能性もあると考え、マーケットの動きには臨機応変に対応していきたいと考えます。



左記のQRコードよりXアカウントにアクセスいただけます。
パリミキアセットマネジメント【公式】
@PM_Asset

パリミキアセットマネジメント
ファンドマネージャー
宇野 隆一郎



PARIS MIKI ASSET MANAGEMENT



2025 年 年末にかけての相場見通し (2025.7.4)

年末の目標数値を引き続き以下の通りとします。

- ・ S&P500 (米国) : 5,900p 年末比 + 0% (←年初目標は 6,900 p 年末比+17%)
 - ・ 日経平均 (日本) : 41,000 円 年末比 + 3% (←同 45,000 円 年末比+13%)
- ※但し、両指数共、年間で高値から▲10~15%の下落局面を想定。(不変)

現状の株価水準は既に年末の目標値を上回る水準にありますが、以下のように考えます。

今年前半は、4 月上旬にトランプ大統領による予想をはるかに超える**相互関税の発表により、米国株や日経平均などは大きく下落**し、その後の約 3 か月で急速に戻しました。それは以下の環境に基づくものでした。

- ・ トランプ相互関税発表後、90 日間の交渉期間を設けたこと。
- ・ センチメントを示す指標は悪化したものの、実体経済を示す指標は悪化しなかったこと。
- ・ インフレーターも駆け込み需要の影響で価格の上昇が見られなかったこと。
- ・ 割高感があった年初の株式相場が 20% 近くの下落により割安となったこと。
- ・ M2 が史上最高水準にあり、資金の流動性が非常に高いこと。
- ・ 6 月下旬に地政学リスクが遠のいたこと。
- ・ 大幅下落後の上昇に乗り遅れた市場関係者が多かったこと、などです。

6 月にかけて株価はその下落を全て取り戻し、株価指数によっては史上最高値圏に推移していますが、ここから大きく上昇することは簡単ではないと考えます。それは、この 3 か月間で**好材料が殆ど出尽くした感があり、株価が再度割高圏に戻ってしまった**ことから、以下のような悪材料に焦点が当たる可能性があると思うからです。

- ① 雇用の内容が少しずつ緩くなってきていること。
- ② 債務上限の引き上げを含む大型減税法案可決により、財政悪化懸念が高まる可能性があること。(議会予算局 (CBO) の計算によると、今後 10 年で約 3.4 兆ドルの赤字が増えるとのことです)
- ③ インフレ指標は下げ止まり感があり、インフレ圧力が依然として残っていますが、今後関税の交渉期限到来による各国の関税発動により上昇圧力が増すこと。
- ④ 長期金利の上昇サイクルは始まったばかりであり、財政悪化やインフレにより金利が高止まりする可能性が高いこと。
- ⑤ 大型減税法案により減税は実現されるものの、一方で消費者による関税負担がかかり、減税効果を相殺することになること。

但し、今年後半は、経済が急激に悪化し景気後退になることがない限り、**下落しても 4 月の安値を下回ることはなく年末には上昇が見られ、2026 年に向けて更に上昇していくものと考え**ます。

日本株については、今後円高局面も想定され、上値を抑えることはあると考えますが、**インフレが進む中、全体的には底堅い展開**となるものと考えます。

現時点で個人的に考えていることを述べましたが、状況が変わり次第見通しは変えていく予定です。



パリミキアセットマネジメント
ファンドマネージャー
宇野 隆一郎

【6月の運用コメント】

基準価額は月間で+1.39%となり、年初来で+4.83%となりました。

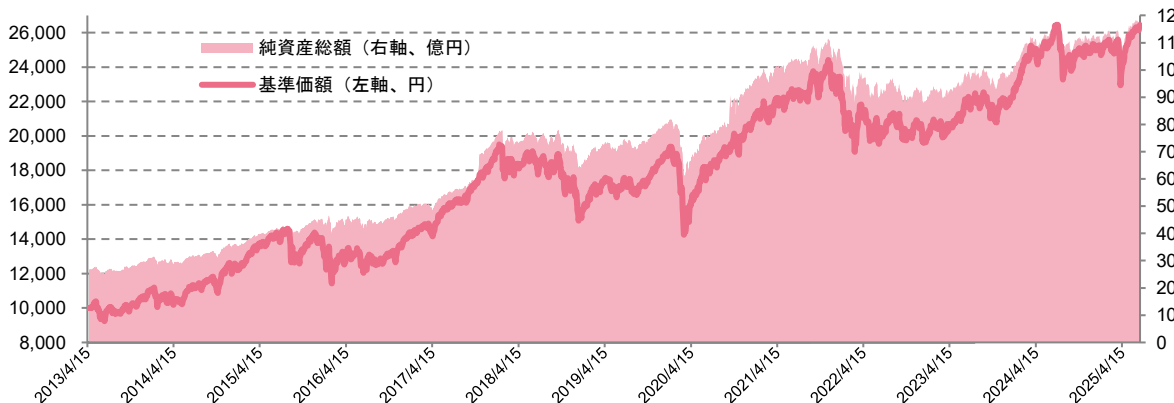
個別ファンドの騰落率については、上昇の寄与度が大きかった東欧株式ファンドのトリゴンが騰落率5.01%、日本株式のジェイリバイブが同+3.51%、インド株式ファンドのチカラインディアンが同5.12%などでした。一方、下落寄与したのはピクテ・ゴールドなどで騰落率▲1.22%でした。

6月の売買では、欧州株のETFを合計3.5%売却しました。キャッシュ比率は前月の4.49%から7.79%へ増加しています。

為替が、対ドルで約1円(+0.65%)、対ユーロでは約6円(+3.72%)円安へ推移し、ポートフォリオへ+0.77%引き上げたこととなります。

現状の外貨資産リスク(37%)に対する為替ヘッジ率は、30%で、全体のポートフォリオの内、ヘッジ後の外貨リスクは26%となっています。

基準価額と純資産総額の推移



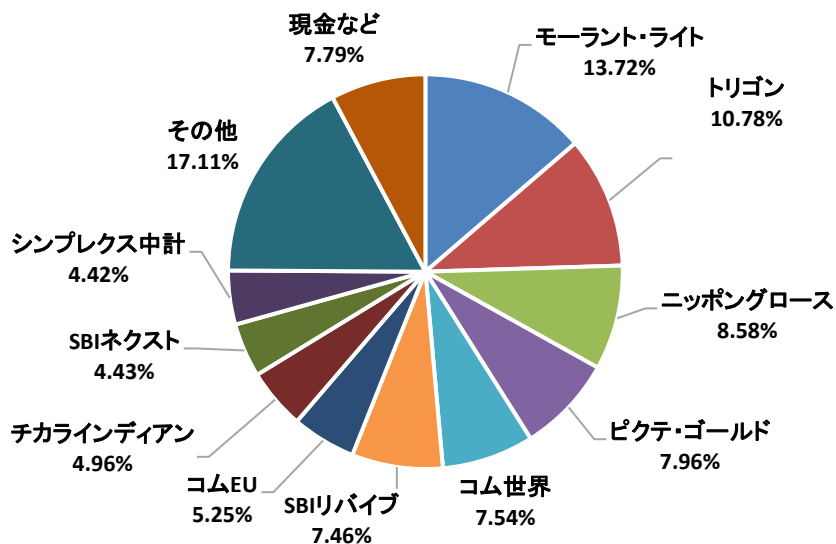
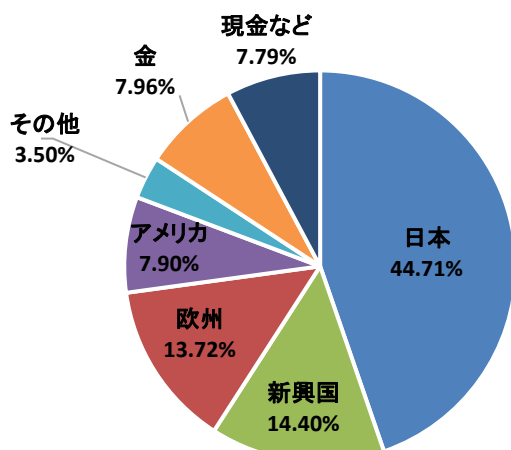
組み入れファンドTOP5 基準価額の前月比

モーラント	0.51%
トリゴン	5.06%
ニッポングロース	0.12%
ピクテ・ゴールド	-1.22%
コムジェスト世界	1.03%

コドモファンド概況

基準価額	26,438円	設定日	2013年4月15日
純資産総額	11,889百万円	信託期間	無期限
ボラティリティ(1年)	10.09%	決算日	毎年2月25日 (休業日の場合は翌営業日)

資産構成比率(組入ファンド全19本)(左:国別、右:ファンド別)



期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
1.39%	4.03%	4.83%	1.59%	29.86%	47.30%	87.69%	164.38%
					(複利年率) (8.05%)	(複利年率) (6.49%)	(複利年率) (8.28%)

ファンドにかかわる費用

運用管理費用
(信託報酬)

年率1.10%(税抜き1.0%)

組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.75±0.5%(税込/概算)

【6月の運用コメント】

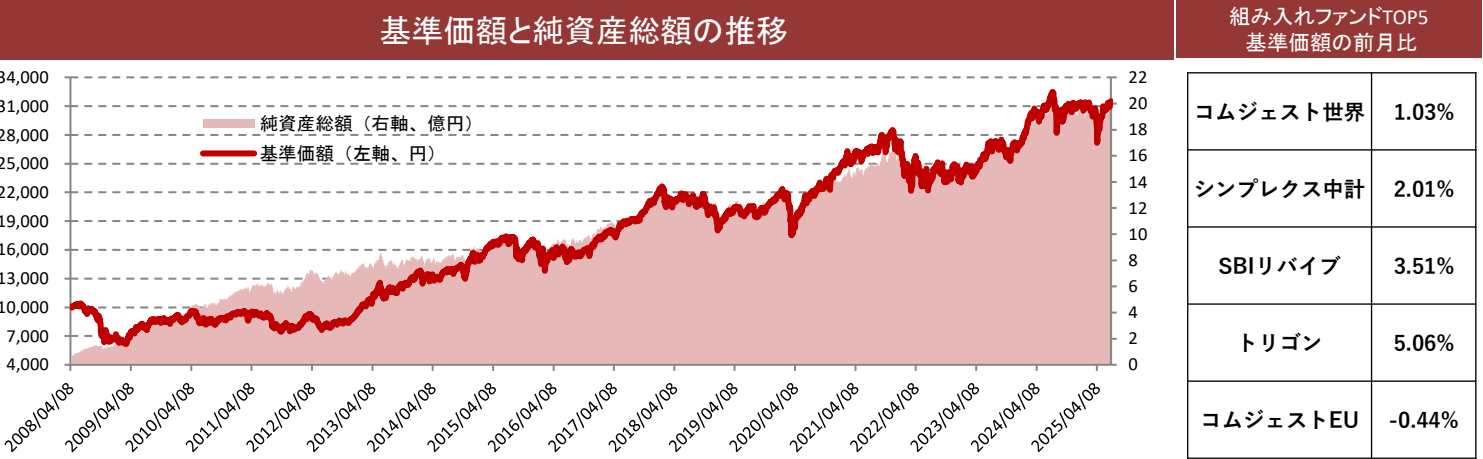
基準価額は月間で+1.83%となり年初来で+0.40%となりました。

個別ファンドの騰落率について、上昇寄与が高かったのは日本株式のジェイリバイブが騰落率で+3.51%、東欧株式ファンドのトリゴンが同5.06%、日本株式のシンプレクス中計が同+2.01%などでした。下落寄与の銘柄はコムジェストヨーロッパで騰落率は、▲0.44%でした。

6月の売買は、世界株式ファンドを3.0%売却し、欧州株ETFを1.0%売却しました。キャッシュ比率は前月5.92%から9.47%へ増加しております。

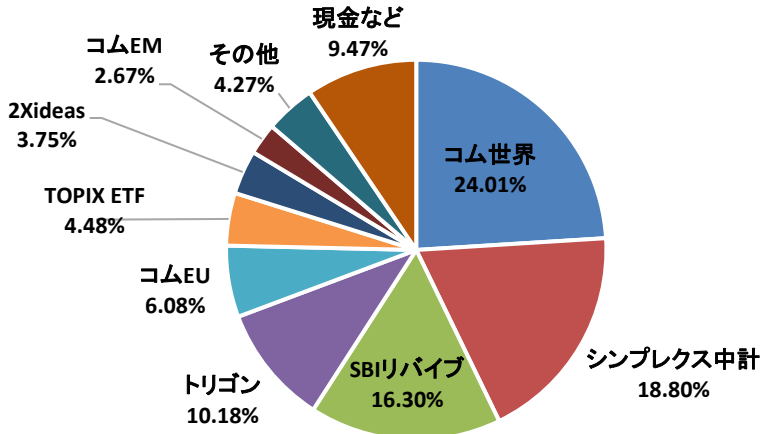
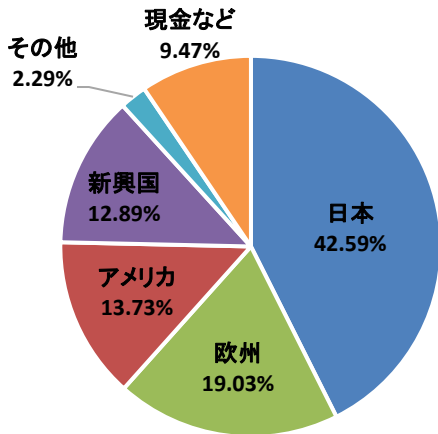
為替が対ドルで約1円（+0.65%）、対ユーロでは約6円（+3.72%）円安へ推移し、ポートフォリオを全体で0.96%引き上げたこととなります。

現状の外貨資産リスク（46%）に対する為替ヘッジ率は、32%で、全体のポートフォリオの内、外貨リスクは31%となっています。



浪花おふくろファンド概況				
基準価額	31,531円	設定日	2008年4月8日	
純資産総額	1,968百万円	信託期間	無期限	
ボラティリティ(1年)	13.48%	決算日	毎年3月3日（休業日の場合は翌営業日）	

資産構成比率（組入ファンド全10本）（左：国別、右：ファンド別）



期間別騰落率(%)							
1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
1.83%	3.40%	0.40%	-1.25%	34.47%	48.42%	85.49%	215.31%
					(複利年率) (8.21%)	(複利年率) (6.37%)	(複利年率) (6.89%)

ファンドにかかわる費用	
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.99%(税抜き0.9%) 組み入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.65±0.5%(税込/概算)

コドモファンド・浪花おふくろファンドにかかわる共通のその他費用・手数料

信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

設定・運用・販売は株式会社パリティアセットマネジメント／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2727号

※比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。



「死」を忘れた日本人と本物の経営

1. 生きる意味を見出せない時代

「やりたいことが見つからない」。

現代の若者たちをはじめ、我々がしばしば口にするこの言葉には、単なる甘えや贅沢とは異なる、深い空虚さが感じられます。何をしても満たされず、何かをしたいはずなのに何も浮かばない。背景には、豊かさと情報過多、そしてもう一つ、私たちが「死を忘れてしまった」ことがあるのではないのでしょうか。

かつての日本人は、死を日常の中で感じながら生きていました。家で看取り、仏壇に手を合わせ、お盆には先祖を迎える。死は人生の終わりであると同時に、生を見直すための静かな時間でもあったのです。『葉隠』にある「武士道とは死ぬことと見つけたり」という一節は、死を覚悟することで迷いなく生きるという逆説的な知恵を示しています。

現代社会では、死は病院に隔離され、学校や職場では話題にすることすらはばかれます。その結果、「終わり」や「有限性」に対する感覚が希薄となり、「どう生きるか」を見つめる視点も失われているのではないのでしょうか。さらに、私たちの意識は「私」へと収束していきます。私の成果、私の評価、私の幸せ——そうした「私心」が肥大化し、生きる意味の手がかりを見失っているのです。

2. スティーブ・ジョブズとイーロン・マスクに見る「死生観」

このような時代にあって、死を意識することで生の意味を選び直していた人物がスティーブ・ジョブズです。彼は17歳の時、「毎日を生る人生最後の日だと思って生きれば、いつか必ずその通りになる」という言葉に出会い、毎朝「今日が最後の日でも、いまやろうとしていることを本当にやりたいか」と自問したといいます。

ジョブズは禅に深く傾倒し、Apple製品のデザインやプレゼンテーションには「余白」「簡素」「無心」といった日本の美学が色濃く反映されています。精神的な支えとなっていたのが、日本の禅僧・乙川弘文氏や、愛読書『弓と禅』でした。その中には「的を狙ってはならない、狙いを手放せば当たる」という教えがあり、弓道の「正射必中」——無我の状態で射れば自然と当たる——という精神を示しています。



一方、イーロン・マスクにもまた、武士道的な死生観が見られます。彼は自らロケットに搭乗しようとし、AIが人類を滅ぼす可能性を冷静に語るなど、死をタブー視せずに真正面から向き合っています。そしてその行動原理は、利益ではなく「どれだけ多くの人に恩恵を与えるか」といった大義に基づいています。またエゴを捨てる重要性も強調しています。

これはまさに、武士が「義のために命を賭ける」精神と重なります。彼の行動は、私心を超えたところにある大きな目的のために、すべてを投じるという意味で、現代的な「無我の実践」と言えるのではないのでしょうか。

3. 日本的生き方に目覚めるとき

藤井風さんの楽曲『満ちてくる』にも、「手を放す、軽くなる、満ちてくる」という歌詞があります。これは、「執着を手放すことによって、本当に大切なものが自然と満ちてくる」という、日本的な死生観のエッセンスを見事に表現しています。

死を遠ざけた社会は、生の輪郭を失います。だからこそ私たちはもう一度、「どう死ぬか」を考え、「何を成し遂げたら死んでもよいと思えるか」を問い直す必要があるのではないのでしょうか。

優秀な多くの若者が一攫千金を狙い、ユニコーン企業を目指すアメリカで、最も成功し、尊敬を集める二人が、このような日本の哲学に基づいた経営を行っていたということはとても興味深いことです。

企業の成長にはマネジメントにおける経営のノウハウも必要ですが、経営者の人間としての成長も不可欠だと思います。かつては欧米の経営論を好んで輸入してきた日本企業ですが、今こそ日本のもつ本質的な価値観に目覚め、世界に発信する時かもしれません。



(株)パリミキホールディングス

代表取締役会長

多根 幹雄



チームあいのり

ナマケモノ



今回はのんびりとした不思議な生物「ナマケモノ」の生態をご紹介しますと思います。

ナマケモノは南アメリカの熱帯林に生息し、葉を主食としています。体長は50～80cm、体重は4～8kgほどで、アルマジロやアリクイなどに近い種族です。

そんなナマケモノですが、実は大きく分けると「ミツユビナマケモノ」と「フタユビナマケモノ」の2種類に分けられます。その名のとおおり前足の指(かぎ爪)の数が違うのですが、ミツユビナマケモノは昼行性で、顔の模様がたれ目のように見えるのも特徴の一つです。一方、フタユビナマケモノは夜行性で、意外にも気性が荒く攻撃的な一面を持っています。

ご存知のとおりナマケモノはほとんど木の上で生活しており、週に1回ほど排泄をするために木から降りてきます。彼らの一日の食事は数枚の葉だけで、動きがゆっくりしているのは消費するエネルギーを節約するためであり、戦略的に怠けて(節約して)いると言えます。また、体を動かさなくても食事ができるように首が270度も動くという徹底ぶりには驚かされます。(フタユビナマケモノはミツユビナマケモノより活発に動くため、食事量も多いそうです)

ゆっくりとした動きのため体に藻が生えて緑色に見えることもありますが、生息する熱帯林の中ではそれが保護色となり、外敵から身を守ることに繋がっています。この藻はナマケモノにとって食料にもなるため、彼らにとって重要な存在と言えるでしょう。

実は藻が育つにはナマケモノの体毛に生息する「ナマケモノガ」と呼ばれる蛾が発生させる窒素が影響しているといわれ、その共生関係について研究が進んでいるそうです。

蛾はナマケモノの糞に卵を産み、幼虫はその糞を食べて成長し、成虫になるとナマケモノの体毛に移動します。つまりナマケモノは蛾に棲み家と幼虫のための食料を、蛾はナマケモノに食料となる藻を提供し共生しています。

ナマケモノがわざわざジャガーなどの外敵に狙われる危険な地上に降りて排泄するのは、蛾に卵を産んでもらうためという説もあるそうです。

このように、争いごとに関するニュースが多い昨今ですが、お互いに共生できる関係を築き平和に生きるナマケモノを見習いたいと思います。

入江 孝之

新しい「チームあいのり」メンバーのご紹介

7月1日に(株)パリミキより出向社員としてメンバーに加わりました馬冬生(まとうせい)と申します。

10年前からGOLDの担当としてパリミキ主催のメガネ・宝飾フェアに参加しております。金のインゴットをはじめ、金製品の説明・販売をしますが、お客様と社員から経済、資産運用についてよく相談されます。投資に興味があるものの、一歩踏み出せ無い方が多くいらっしゃいます。これからもお客様の資産形成のお手伝いをさせて頂きたいと存じます。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

馬 冬生



「取引残高報告書(定期交付)」・「ご投資状況のお知らせ」の交付について

「取引残高報告書(定期交付)」・「ご投資状況のお知らせ」を7月上旬に送付・電子交付しました。

「取引残高報告書(定期交付)」は四半期毎に作成され、その期間のお取引を記したものです。

今回は2025年4月～6月末までにお取引（売買等）があったお客様および期間中にお取引がなくても残高がある場合には、最後のお取引から1年が経過したお客様が送付・電子交付の対象となっております。

なお、電気交付サービスをお申込みの方（月次レポートがメール配信されている方）は、「お客様マイページ」に、電子交付いたしておりますので、マイページから閲覧してください。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドにかかわる費用

当社が扱う投資信託に、購入・換金手数料および信託財産留保金はありません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は株式会社パリミキアセットマネジメントが運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当社でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料中に示された数値は、作成基準日現在において入手可能なデータを参照し、弊社にて計算しております。

毎月つみたてスケジュール

次回引落日は、**8月5日（火）**です。

8月分金額変更・中止・再開締切日・・・**7月23日（水）**

9月分新規・口座変更締切日・・・**8月1日（金）**

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話・マイページ上（再開を除く）でも承っております。

再開につきましては、書類でのお手続きとなりますので、お電話・マイページ上・ホームページ上にて用紙をご請求ください。



株式会社パリミキアセットマネジメント
お客様サポートチーム
(受付時間：平日9時～17時)

お客様専用通話料無料ダイヤル:0800-5000-968
E-mail: support@pmam.co.jp